

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>校訓（建学の精神） ・きたえる ・たかめる ・思いやる</p> <p>学校教育目標 「自らのよさを感じ、自ら考え行動する 作見っ子の育成」</p> <p>重点目標 「楽しい学校は、自分でつくる みんなでつくる」<br/>～自分から ～みんなのために～</p> | <p>めざす児童像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○目標をもって、挑戦する子</li> <li>○学びを楽しみ、学びを生かす子</li> <li>○人との関わりを大切に、豊かにつながる子</li> </ul> | <p>めざす教師像</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チャレンジ精神・向上心のある教師</li> <li>○授業を大切に、児童を伸ばす教師</li> <li>○チームで、豊かに育てる教師</li> </ul> |
|--|--|---|

| 評価の項目              | 今年度の重点目標                                  | 具体的取組  | 主担当                          | 現状及び取組状況   | 評価の観点  | 実現状況の達成度判断基準  | 備考                     | 判定結果(中間) | 判定結果(最終) | 次年度への対策   |
|--------------------|---|--|------------------------------|--|--|---|------------------------|----------|----------|---|
| ①教育課程・学習指導         | 主体的に学ぶ授業を通して学力の向上を図る。                     | ・「付けたい力に応じた対話的な学びの充実」を重点として研修を深め、授業力を高める。<br>・児童が学習を自ら調整し、工夫していく学習形態の授業実践に取り組む。                            | 研究主任<br>教務主任                 | 付けたい力につながる言語活動を設定し、指導事項とねらいを明確にした授業づくりに取り組んでいる。ねらいに応じた交流場面を設定し、対話的な学びの充実や、児童が主体的に学ぶ学習形態の工夫を推進する                        | 【成果指標】<br>対話的な学びの充実に向けて、交流場面や学習形態の工夫をする。               | 授業において交流場面や学習形態の工夫をしているという教職員が<br>A 80%以上である<br>B 70%以上である<br>C 60%以上である<br>D 60%未満である        | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A        | A        | 「付けたい力」を明確にした授業を行い、交流や対話の場面でねらいや目的に応じた学習形態の工夫を重ねた。個別最適な学習においてもマイル学習などで組織的に子どもに委ねる授業に取り組んだ。主体的に取り組むことができていくか、学習内容が定着しているかなどを的確に見取り、評価していく方法を考えていく。   |
| ②生徒指導<br>※いじめの未然防止 | 安全・安心な風土を醸成する。                            | お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れる風土を教職員の支援の下で児童自らが作り上げられるように取り組む。  | 生徒指導<br>主事                   | 児童の自己肯定感や自己有用感が低く、たくさんの人から認められる経験が乏しい児童が多い。いじめ作見小の取り組みを生かして、安心・安全な風土の醸成を行う。  | 【成果指標】<br>いじめ作見小の取組を積極的に進めている。                         | いじめ作見小の取組を積極的に進めているという教職員が<br>A 90%以上である<br>B 80%以上である<br>C 70%以上である<br>D 70%未満である            | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A        | A        | 今年度は児童にも取り組みを広げた成果として、「自分にはよいところがある」と答えた児童が1%増加し、昨年度からも改善の傾向がみられている。まだ自分にはよいところがないと答えている児童も20%いるため、来年度も継続していく。  |
|                    | 児童の自治能力の向上をめざす。                           | クラス会議等を通じて、児童個々がクラスを良いものにしていく意識を高め、安心して自分の考えを話し合えるクラスづくりができるようにする。また、6年児童や委員会活動等を通して学校生活をより良いものにしていく意識を高める | 生徒指導<br>主事                   | 落ち着いた学習に取り組む、友達と関わる姿が見られるが、クラスや学校全体に係わることは、やや意識が低い傾向があるので、多くの児童の当事者意識を高める必要がある。  | 【成果指標】<br>委員会活動やクラス会議等において、考えを持ち発言しようとする姿が見られる。        | 「クラスや委員会の話し合いで、自分の考えを話すことができた」という児童が<br>A 80%以上である<br>B 70%以上である<br>C 60%以上である<br>D 60%未満である  | 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。  | D        | C        | 自分の考えを話すためには、学級のルールとリレーションの確立が必要である。次年度は、考えを話せるようになるための学級づくりという視点でWEBQUを活用しながらの対策を考えていく。  |
| ③キャリア教育・進路指導       | 自分の良さに気づき、自ら考えて行動する児童の育成を図る。              | 行事を中心に日常生活の中で自分の良さに気づき、自ら考えて行動するための指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、1年間のめあてを立て、学期ごとに振り返りを行う。                         | キャリア<br>教育担当                 | 自分の良さを実感できていない児童が多い傾向がある。各種行事や代表委員会を中心に、児童に活躍する機会を与えていく。その中で、児童が主体となって学校を作っている実感を持てるようにしていく必要がある。                      | 【成果指標】<br>児童は自分に良さがあると感じている。                           | 「自分には良いところがある」という児童が<br>A 90%以上である<br>B 80%以上である<br>C 70%以上である<br>D 70%未満である                  | 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。  | B        | B        | 今年度は、キャリアパスポート内の振り返りを学期末に実施した。学期末振り返りに反省をするのではなく、行事が終わった後の振り返りをキャリアパスポートに蓄積させておき、逐一自分の良さを実感する機会を増やした。代表委員会はランチミーティング形式で行い、オンラインで各クラスに配信するなど、全校児童が慣れる場所としての価値を醸成していく。生活目標や人権週間との関連もより一層意識し、子どもを認め、委めて伸ばす環境を学校全体として整えていく。 |
| ④保健管理              | 歯と口の衛生に対する意識を高める。                         | ・歯と口の衛生週間に全学年保健指導を行い、委員会活動や学校保健委員会等で年間を通して歯と口の衛生に対する意識を高める。<br>・給食後の歯磨きを再開し、歯磨き強化週間を6月と11月に設定する。           | 保健主事<br>養護教諭                 | コロナ禍で給食後の歯磨きやマスクを外しての歯磨き指導ができなかったため、歯と口の衛生に対する意識を高める必要がある。   | 【努力指標】<br>児童が歯と口の衛生に意識して取り組んでいる。                       | 「歯磨き強化週間」に意欲的に取り組んだ児童の割合が<br>A 80%以上である<br>B 70%以上である<br>C 60%以上である<br>D 60%未満である             | 「歯磨き強化週間」の取り組み状況を把握する。 | A        | B        | 6月の歯磨き強化週間で土日の取り組みができていなかったため、保護者に対する啓発を目的に歯と口の健康が生徒に影響を及ぼすという内容で学校保健委員会を計画したが、インフルエンザ流行のため中止となったり、歯磨きカードの取り組みができなかった児童もいたりした。ハッピー検定の取り組みは意欲的にでき、歯と口の健康に対する知識を学ぶ機会になった。今後も児童に指導していくと共に保護者にも啓発していきたい。                    |
| ⑤安全管理              | 児童の情報モラル・セキュリティに対する意識を高め、ネットの適切な使い方を実践する。 | ・教科の指導や学活の時間等を含めた様々な学習場面で、児童自ら責任を持って、適切に情報を扱うとする意識を高め、行動できるようにする。また、保護者と連携しながら啓発に努めるようにする。                 | 生徒指導<br>主事                   | 情報通信端末を端末とした児童同士のトラブルが見られるようになり、今後大きなトラブルに発展する可能性がある。そのため全ての児童が適切に情報通信端末を扱えるように児童の意識を高める必要がある。                         | 【成果指標】<br>児童がネットに関する家庭でのルールを守っている。                     | 「お家の人とのゲームのルールを守っている」と答えた児童の割合が<br>A 90%以上である<br>B 80%以上である<br>C 70%以上である<br>D 70%未満である       | 1,2学期末に児童アンケートを実施する。   | C        | C        | C評価に変わりはないが、ゲームのルールを守っていると回答した児童の割合が増加している。今年度、授業参観や学年行事を活用して保護者への啓発活動を行った。今年度の取り組みを継続する。   |
| ⑥特別支援教育            | 特別な支援を必要とする児童について理解を深め、支援のしかたを検討し実践する。    | 児童の実態をつかみ、適時校内支援委員会を開いたり専門相談につなげたりしながら、より効果的な支援のしかたを検討し実践する。   | 特別支援教育<br>コーディネーター<br>教育相談担当 | 校内支援委員会でケース会議などを開き、専門相談につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれのケースについて、さらに継続して支援の方法を探っていく必要がある。                                     | 【努力目標】<br>支援委員会や、具体的な支援のしかたを決めて、実践しようとしている。            | 具体的な支援を行うことができたという教職員が<br>A 80%以上である B 70%以上である<br>C 60%以上である D 60%未満である                      | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A        | A        | 担任や保護者からの困り感や要望を聞き、専門相談や山下特別支援アドバイザーにつなげ、支援方法を検討し、個に合った支援をしてきた。継続して、それぞれのケースについて共通理解し、組織的に対応していきたい。   |
| ⑦組織運営・業務改善         | 業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。                | 勤務時間記録をもとに、時間外45時間を超えない働き方への意識を高めるとともに、業務の精選、削減、平準化を進める。   | 教頭                           | 業務改善の意識は浸透してきているが、担当業務による時間外勤務時間の偏りが見られる。各自が自分の働き方を見直したり、常に各部会・全体会等で互いに確認したりして、業務改善の意識をもち、企画・実行していく。                   | 【努力指標】<br>教職員が、全体や個人の取組の中で、勤務時間の削減に取り組もうとしている。         | 「時間外勤務時間を45時間以下にしよう」と努力している」と回答した教職員が<br>A 80%以上である<br>B 70%以上である<br>C 60%以上である<br>D 50%未満である | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A        | A        | 10月の時間外勤務時間の平均は46.5時間となり45時間を超した。また、依然として担当業務による時間外勤務時間の偏りは見られる。3学期も、日課や学校行事の内容や分担の見直し、ICT活用等を行い、業務改善に努める。  |
| ⑧研修                | 教員の情報活用能力を育成するための研修を実践する。                 | PC活用講習会を実施することを通して、日々の実践の交流やPCの使い方、PCを活用した授業の教材研究について教員が学ぶ機会を設け、実践を積み上げる。                                  | 教務主任<br>GIGA推進<br>リーダー       | 昨年度より、月に1度のPC活用講習会を設定した。PCの扱いには慣れてきているが、教材の特質に応じた活用や実践の機会を増やす必要がある。  | 【努力指標】<br>PC活用講習会等の校内研修を経て、教材の特質に応じた活用をし、実践しようとしている。   | 情報活用し実践に努めることができたという教職員が<br>A 90%以上である<br>B 80%以上である<br>C 70%以上である<br>D 70%未満である              | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A        | A        | PCの扱いには慣れてきているが、新たなアプリや活用方法などが更新していくため、継続的にPC活用講習会、ミニ研修等を設定していく。教材の特質に応じた活用や実践の機会を共有し活用していけるようにする。  |
| ⑨保護者、地域との連携        | 学校の情報を提供したり、学習の中で保護者と連携する場を設け、開かれた学校を目指す。 | 学校便り、ホームページ等を通して、学校の様子を積極的に発信する。学習の成果物について保護者の感想をもらったり、授業を生かした家庭での取組を行ったりする場面を設定する。                        | 教頭                           | コロナ禍の中で、児童の学校生活の様子が保護者や地域に伝わりにくい状況があったため、学習の中で、家庭と連携する取組を行ってきたが、見直しをもって行うことが難しかった。どんな連携ができるかを情報共有し、計画性をもって、行っていく必要がある。 | 【努力指標】<br>学習の中で、家庭との連携を意識した取組を行っている。                   | 授業等で家庭と連携した取組を行ったと回答した教職員が<br>A 80%以上である<br>B 70%以上である<br>C 60%以上である<br>D 50%未満である            | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | B        | A        | 様々な教科や単元において、家庭と連携しようという意識が高まってきた。しかし、保護者アンケートの「学校便りやホームページ等、学校の様子がよくわかるか」という項目では、否定的な回答が増加した。今後コドモンを利用し、お便りを配信する等の対策を講じていく。  |
| ⑩教育環境整備            | 児童の安全安心のために、施設・設備の安全点検を実施して、改善する。         | 毎月15日、管理場所の安全点検を行い、不備な箇所については、速やかに修繕を行う。   | 教頭                           | 毎月15日に、安全点検は行われており、不備な箇所の修繕もしているが、一部老朽化が進んでいる箇所もあり、児童の視点に立った安全点検を行っていく必要がある。   | 【努力指標】<br>危険防止の意識が高まり、施設の不備を未然に察知することで、改善に向けた努力を行っている。 | 児童の視点で、安全点検に取り組むことができた教職員が<br>A 90%以上である<br>B 80%以上である<br>C 70%以上である<br>D 60%未満である            | 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A        | A        | 今後とも児童の立場に立った安全点検を行っていく。不備を発見した場合は迅速に対応する。1月の地震による被害についても、市と連携しながら対応を進める。   |

|         |   |
|---------|---|
| 学校関係者評価 | ・小学生のスマホの保有率が上がっている。スマホが絡んだ仲間外れ等のトラブルも増えている。スマホを持たせる責任を保護者にもっと感じなければならない。・親が自分の子どもの交友関係について話す内容が、子どもに影響しているのではないかと。相手の良さを見ようとするのが、自分の良さを実感し自己肯定感を高めることにつながるのではないかと。・おたより等をデータで配信することについては、内容やねらい等によって紙かデータかを選ぶとよい。・ICT活用や業務の見直しにより、業務改善が進んでいる。今後もさらなる改善のための工夫を重ねてほしい。 |
|---------|---|